

ベトナムカジノ産業の現在と未来

石川 幸

ホーチミン市内をガイドブックを持って歩いている観光客の姿を数年前よりも多く見かけるようになりました。食事、買い物、観光地巡りなど人によってベトナム観光の目的は様々ですが、中にはカジノを目的にお越しになる方もいらっしゃるかと思います。事実、ベトナムも外国人観光客誘致のためにカジノを併設したホテルが建設されております。ここホーチミン市では5つ星ホテルを中心にカジノが併設されており、手軽に楽しむことが出来るほか、ホーチミン市から約100km離れた港町のブンタウ市にはホーチャム（Ho Tram）というカジノ・リゾートもあります。また、ホーチミン市から約300km離れたリゾート地のフーコック島には、約40億USドル（約4,520億円）の大型カジノ施設の建設が予定されています。

そのような意味では、カジノも来越目的の一つとして魅力的に映るかもしれません。そこで、今回はベトナムのカジノに関してご案内していきます。

<ベトナムカジノの特徴>

まず、ベトナムカジノの特徴を5点ご紹介します。

1.「服装」 モナコやアメリカなど他国のカジノと比較してドレスコードなどが無く、サンダルに短パンといったカジュアルな服装でも入場が可能です。

2.「ディーラーが不在」 スロットなどのゲームマシンだけでなく、ルーレットやブラックジャックなどテーブルゲームでさえディーラーはおらず、ゲームマシンです。

3.「ベトナム人の利用は禁止」 ベトナム人のカジノ利用は法律で禁止されているため、入場の際、必ず外国パスポート保持を確認されます。

4.「ベトナムの通貨ドンが使えない」 ベトナム国内にもかかわらず、ベトナムドンが使えず、アメリカドルが使われています。

5.「勝ちすぎない」 どういうことかと思われたでしょうが、ベトナムから外国への貨幣持ち出しは5,000USドル（約56万5,000円）までと法律で定められているため、カジノで大勝ちされた観光客の方は注意が必要です。また、ベトナムから海外への送金は規制が厳しく、カジノの賞金のような元手不明金と解されるものの海外送金も非常に難しいと思われま

<カジノの台所事情>

カジノ産業といえば華やかなイメージがあるため、膨大な利益を上げているように感じますが、意外にもベトナムのカジノ産業は経営不振という苦境に立たされています。

西北部地方ラオカイ省でアリストインターナショナルホテルを運営するオーストラリアのドナコインターナショナル（Donaco International）は、2016年のカジノ事業の売上高が2,300万USドル（約26億円）、税引前利益は400万USドル（約4億5,100万円）でしたが、同社のカンボジアでの利益の6%相当に過ぎません。※1

この大きな原因の1つが、前述したようにベトナム人のカジノへの入場が禁止されており、外国人のみに限定されている点です。

カジノを楽しみにカンボジアやシンガポールなどに遠出をするベトナム人も少なくはないようで、ベトナム社会科学研究所の調査によれば、1日平均200人のベトナム人がカジノ目的で隣国のカンボジアに渡航をしているようです。そのため、現在、「ベトナム人のカジノ入場規制の解禁」（通達第102号/2017/TT-BTCを参照）※2に関する法令草案が大きな注目を集めており、隣国に流れる潜在的な顧客層であるベトナム人を国内に留める事で、現状のカジノの経営不振を改善しようという目論見もあるようです。

<今後の成長に期待>

今後、カジノがベトナム人にも開放された場合、カジノ業界の成長が見込まれる可能性があります。日本でも地方活性化の一環として観光客誘致のためのカジノ運営を検討されている地方公共団体があると伺いますが、そのような意味では、これから発展するであろう、現在のベトナムのカジノ産業も要注目かもしれません。

ご興味のある方は、是非ともベトナムに足を運んでいただき、ご自分の目で確かめていただければと思います。



(ブンタウ市の大型カジノ・リゾート)

※1 www.viet-jo.com/news/economy/170203081114.html

※2 www.viet-jo.com/news/law/171103082320.html